

## セッション1 質疑応答

### プラサード・セートンガ (パラデニヤ大学)

ありがとうございます、キャサリン。発表はこれですべて終了しました。それでは、会場の皆様から質問を受けたいと思います。まだ、質問は受けていませんでした。江口氏の発表は日本の JICA 側からのもので、JICA の方針について報告されました。ディビアはまた別の国際協力について、基本的にイギリスからの見解を述べられました。最後に、キャロラインはフィリピンの状況と、南アジア諸国にとっての優先事項について発表されました。質問時間は5分あります。

### 質問1

#### モト・ヤング・ネー・イサ・チュベ (カメルーン女性と家族省)

私はカメルーンのフランシスカです。JICA の女子および女性教育推進プログラムに参加しています。義務教育についての法律を施行することを話されました。どのようにすればそれは可能でしょうか。なぜなら保護者が子供達を学校に通わせるための金銭を持たない場合があるからです。また、子供達が学校に行きたがらない場合もあります。子供達を通わせない、もしくは通わせることのできない保護者は罰されるのでしょうか？

### 質問2

#### ジャー・オウド・イナラ (モーリタニア大使館)

プレゼンテーションの内容に私にとってとても興味深い点がありました。その点に関して何かアドバイスをいただけるでしょうか？学校があり生徒もいるのに教師がいない、とプレゼンテーションではありました。それは私の国で直面している最悪な状況だと思います。政府は教師育成に多くの費用を費やしています。しかし、教師たちはあきらめてしまいます。私たちは主に教育システムにおける頭脳の枯渇にあえいでいます。この状態に対してなにかアドバイスはないでしょうか？

### 質問3

#### ハミード・ラトール・サアダト (パキスタン JICA 研修員)

いくつかのプレゼンテーションを聞いてきましたが、あなたはある点で教師に対する待遇について言われました。教師の待遇は向上できると指摘されました。初等教育や教育を向上させる方法、就学率については皆さん話されますが、教師の待遇については誰も言われませんでした。もし教師の待遇が向上するのであれば、教育も確実に向上するでしょう。しかしながら、教師に対する何らかのインセンティブも必要です。資格を持った教師を雇ったり、プロフェッショナルな選択を行うためには、良い施設を教師に提供する何らかの方法が必要です。これはとても良いポイントですが、あなたの国や私たちがこの目的をいかにして達成するかについて、なにか提案はありますか？

### 質問4

#### アフィリジャ・ペーター (広島大学)

ありがとうございます。広島大学の学生、Ahlijah Peter です。江口先生にお尋ねいたします。先生は、日本は支援対象を NGO にも拡大したいと考えている、と話されました。私は、これはとてもよいアイデアだと思います。私の質問は、この NGO への支援についてです。JICA は政府組織であり、他国の政府を支援

していることは私も知っています。それが NGO 支援をしようとしているということで、これはどのような形の支援となるのでしょうか。教育に関わる NGO を支援するのでしょうか。特定の国の政府に付属する、教育関係の NGO なののでしょうか。支援はどのように行われますか。よろしくお願いいたします。

#### 質問 5

メコーネン・ゲブリユウ (広島大学)

ありがとうございます。広島大学のフェローのメコーネン・ゲブリユウです。私の質問は、実は幅広いもので、特定のパネリストの方に向けたものではありません。まず、「2015 年まで残り 5 年の課題 - 何を優先すべきか」という点について質問いたします。これについて、私たちは MDGs の達成のみを優先すべきでしょうか、それとも各国の現状に取り組むことを優先すべきでしょうか。というのは、MDGs 達成のための優先事項は、各国の優先事項と異なることもある、と感じているからです。ですから、私たちは何について尽力すべきかを知りたいと思います。2015 年までに MDGs を達成することだけに関心を向けていて、本当によいのでしょうか。2015 年以降はどうなるのでしょうか。これまでに達成してきたことの持続可能性については、どう対応すべきなのでしょう。

#### 質問 6

ゴメス・フェリシア (カメルーン女性と家族省)

このような機会をいただき、ありがとうございます。私はカメルーン出身のゴメス・フェリシアです。女性と女子教育を推進する JICA プロジェクトに関わっています。スコットランドのディビア博士に伺いたいと思います。博士の発表の中で、とても印象的なものがありました。5 年間でなすべきことに関して他の方々の発表を聞かせていただきましたが、それらはすべて供給という非常に困難な要素に関するものでした。その中で、博士の発表は自尊心という側面に触れていましたが、私自身その分野での博士課程をめざす研究者であり、とても感銘を受けました。私は深い興味を抱き、お話を心から伺いたく思っています。自尊心は、退学や成績といった様々な要素に関連していますが、私たちはそのことを忘れがちです。ですから、博士がこの分野を研究していらっしゃる中で、どのような戦略をお持ちですか。子供の自尊心を向上させる方法について、何かご提案はありますか。お聞かせ下さればありがたく思います。

#### パネリストの回答

プラサード・セートンガ (パラデニヤ大学)

スリランカにおいては、みんな学校に通いたがります。文化的背景が学校教育を強化します。みんな学校に行きたいのです。私たちは強制することではなく、圧力をかけることなく、動機を強化すること観点をおいています。

チャールズ・アヘト-ツェガ (ガーナ教育省)

各国はそれぞれの教師育成システムを持っていると思います。もっとも重要なことは、私たちは資格を持った教師を探しているということです。多くの教師育成と教師開発がその結果になります。教師が確実に職務を遂行する能力を持つようにするため、多くのトレーニングや技術が教師に提供されなければいけません。これは国によります。教師の待遇が良い国では、教育は向上しています。教師への給与が無い国では、教育もありません。他の問題は困窮した地域を支援することです。なぜならこれらの地域に行くことは、教師たちのさらに教育を続けたいという希望にとってマイナスになるからです。このような地域へ行くことを希望

する教師や、もっと多くの教師にこのように地域に行きたいと思わせるような刺激を用意することが必要です。実際、このような困窮した地域と、いわゆる恵まれた地域との差を埋めることは、私たちそれぞれの国において教育の向上に対する努力に対する進歩を遂げるには重要です。さらに、現職教員が学習を続けられるように、しっかりと構築された教師の専門能力開発プログラムを導入する必要があります。

#### 江口秀夫 (国際協力機構)

質問をありがとうございました。NGO との協調は、正直に申し上げて、JICA にとってはまだ大きな課題です。発表でも申し上げましたが、特にノン・フォーマル教育や幼児期の発達に関して、NGO やその他の国際機関は優位な立場にあります。ですから、私たちがこの分野に取り組む際に、NGO との協調の可能性を検討しているわけです。

#### プラサード・セートンガ (パラデニヤ大学)

ありがとうございます。真実の回答をするのは少し難しいと思いますが、次のセッションの後で、この観点について話し合う予定です。実は、目標に向って急いで突き進むのではなく、これらの目標に、現実的状况に基づいてどのように取り組んでくのか、という問題については、今回の発表者全員もいつも議論していることです。それが、私たちの姿勢です。最終セッションで、何らかの意見を述べようと思います。次のセッションの後で、前教育大臣などの議長たち全員で、この問題について考えたいと思います。他に質問はありますか。最後の質問になります。

#### デヴィヤ・ジンダル-スネイプ (ダンディ大学)

申し訳ないのですが、この問題に対する簡潔な回答はありません。ですから、後であなたと話し合いたいと思います。自尊心について議論するにあたり、同僚のミラーと私は、自尊心は二元的なものであると考えています。自信には、自己有能性と自負、という二元性があるのです。自己有能性とは、「私はこれができる。」という感覚であり、自負とは、「私には価値があり、尊敬されている」という感覚です。自尊心を考える場合、それは子供や生徒に成功のチャンスを与えることを意味していますが、同時にそれは、容易に達成できるものではあってはならないことにも充分注意するべきです。子供は、試練に立ち向い、そして成功した、と感じられなければなりません。しかし同時に、先生や同級生、家族や地域社会から高く評価されているとも感じられなければなりません。ですから、これは自己有能性と自負心の拡大の上に慎重に積み上げられる、複合的な戦略です。いずれにしても、後ほど二人で話しましょう。ありがとうございます。

#### プラサード・セートンガ (パラデニヤ大学)

ありがとうございます。時間が迫っています。このセッションを終えるに当たり、皆様のご意見やその他の発表も考慮して、次のような5つの所見を述べたいと思います。一つは、子供中心の教育課程について、量だけでなく、質も考慮しなければなりません。第二に、メインストリームへの加入を急いではならず、今は、補足教育への公の資金拠出をすべき時です。第三に、保護者に対する教育・向上プログラムです。第四に、教師が重要です。よい教師は大きな違いを生み出します。ロドリゲス氏が指摘したように、質の高い教育が大切です。第五、最後ですが、資金について、政策側と学校による双方向の対話を促進することです。ありがとうございます、特にパネリストの方々へ感謝いたします。時間が限られていたことを、お詫びいたします。